

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所まこちゃん		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 19日		～ 令和8年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長期休み期間中に多様なプログラムを体験できること。カラオケや社会体験、外食、コミュニティレストランでの内職活動など、子どもたちが楽しみながら社会性や自立心を育める活動を実施。	体験を通して興味や得意を伸ばし、地域とのつながりを大切にしながら支援を行っている。 また、放課後等デイサービスを卒業後の通所事業所での活動につながるような内容も想定し、支援計画や日々の課題に意識的に組み込んでいる。	地域のお店やボランティア団体などと連携し、実際の仕事を一部体験したり、地元の方と交流できるイベントに参加することで楽しみながら、地域で認められる経験や体験に広げていく。
2	1人1人にあったサービス計画が作成されている。	サービス計画作成の際には、強みに着目して計画作成を行っている。発達の流れを大切にしながら、無理のない小さな目標を積み重ねて、自信や成長につながるよう支援している。	小さな目標の達成を、本人・ご家族・職員が共通で見える形にする。達成シールやスタンプカードなどの工夫で、支援計画の内容を子どもたち本人も、視覚で理解し、自分の成長を感じられる工夫をしていく。
3	個々の意思やペースを尊重した支援を行っている。	年齢的に本人の意思や意見がはっきりしており、無理に全員と関わらないといけない集団指導は行わず、それぞれが安心して過ごせる環境を整えることを優先している。 個々のペースでの関わりや参加を大切にしている。	活動内容や関わり方を、子どもが自分で選択できるようにする。選択制の活動を通して、自ら考え、決める力を育む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない。また、地域住民招待や地域に開かれた活動が行われていない。	昨年同様、地域の子どもの同士が関わる活動を設定できていないことが課題。	多感な時期でもあり、同年代との交流をあまり望まない子どももいる。そのため、保護者や本人の気持ちを確認したうえで、希望があれば、学童との交流や地域のボランティア活動など、無理のない形でほかの子どもたちと関われる機会を提案していく。
2	父母会の活動や保護者会の活動、保護者同士の交流の機会が少ない。	年2回の保護者会開催は周知しているが、仕事をしている保護者が多いため、平日日中だとなかなか時間をとることが難しいこと。	土日開催の保護者会や交流会開催の工夫が必要。父親参加も含めた保護者同士の交流の場や研修の機会を提供できる取り組みを行う。
3	子どもたちが普段過ごしている生活空間について保護者が知る機会が少ない。	参観日等を設けてはいるが、日数が限られており、保護者が事業所内での子どもの様子や支援の様子を直接見る機会が少ない。	今後は、保護者が安心して日々の支援を理解できるよう、短時間の見学日や、写真・動画・支援記録の共有など代替的な方法の検討が必要。